

(Ⅱ) 農業生産工程管理（GAP）の導入・推進

農業生産工程管理（GAP）は、農産物の食品としての安全の確保、環境保全、労働安全といったことに資するだけでなく、品質向上やコスト削減による農業所得向上等の経営改善にも寄与する手段である。国としては、平成23年度までに2千産地でのGAPの導入に向けて、引き続き、取組の更なる拡大を進めることとしている。また、食品安全に関するリスク低減の指針等の科学的知見や、消費者・実需者のニーズを踏まえた先進的なGAPを推進するため、GAPの共通基盤部分（食品安全、環境保全、労働安全）に関するガイドラインの作成を進めるとともに、指導者の育成や、産地指導、産地での研修会の開催や取組に必要な分析、実証等を支援することとしている。

このため、GAPの導入に当たっては、ガイドラインやGAP導入事例などの情報を活用し、

- ① 食の安全確保などの消費者・実需者のニーズに応えること、品質向上やコスト削減等の経営改善につながることなど、GAPの目的・意義(メリット)を分かりやすく説明し、理解増進を図るほか、産地の合意形成を促進することにより、GAPの導入を進める。
- ② GAPの実践により、農作業の各工程ごとに改善点を見出し、その見直しにより着実に生産工程の改善を実現できるように、指導や技術支援等を進める。
- ③ さらに、GAPの共通基盤部分（食品安全、環境保全、労働安全）に係る取組については、農林水産省が作成するガイドラインに則して取組内容の向上を目指す産地に対し、指導や技術的支援等を進める。

<関連情報>

農林水産省HP「GAP情報コーナー」

(<http://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/index.html>)